

ぜんち共済社長

榎本 重秋さん（59歳）

障害者のための日本唯一の保険会社「ぜんち共済」（東京都千代田区）を18年前に起業した。その髪は今、真っ白だ。起業前から苦難の連続だった。資金不足、1年にも及んだ金融庁と厳しい折衝で疲弊し、駅の

ホームから電車に飛び込もうかと思いつめた。その苦労で白髪になったのかと思いきや、「若い時から染めていたけど、来年は還暦なので年なりでいいと思つ」と豪快に笑う。ぜんち共済はほとんどの保険会社がリスト

クが高いと引き受けない知的障害者らとその家族のための個人賠償（対人・対物）、がん保険、入院、死亡、弁護士費用など幅広くカバーしている。

A IU 保険会社（現AIG損保）の社員だった時、知的障

害者補償制度の担当となり、A IU元社員で「障害者保険の生みの親」とされる保険代理店代表の永田仁司氏と知り合ったこ

# 保険が本当に必要な人のために



ぜんち共済社長・榎本重秋さん。かつて通い詰めた国立国会図書館前で=東京・永田町

A IUは損保なので、「病気で入院したときの保障がない」と相談を受け、調べたところ、無認可の共済制度で自由に設計できるとわかり、2000年に「全国知的障害者共済会」の立ち上げに奔走した。その後、38歳で脱サラし、共済会の事務局次長を務め、2万人まで会員を増やした。だが、1997年に起こったオレンジ共済事件の影響で、06年に保険業法が施行され、激震が走った。無認可共済は規制対象となるので、共済会を株式会社化し、少額短期保険（保険金が少額で短期の商品）業者として登録されなければ、続けられなくなつた。社長を引き受けたものの、地獄の日々がはじまつた。

障害者保険の約款は前例がないので、法令など情報を国立国会図書館でかき集め、土日も机にかじりついてひたすら資料を作る。次々と難題が突きつけられ、いつもの笑顔は消えた。「当時、子どもが小さく、邪魔をしてはいけないと妻が実家に連れて帰つたら、僕がうつになつちやつて」と頭をかく。

家族や周囲に支えられ、08年に登録を受けた。契約件数は当初の目標をはるかに超えて今年6万件を突破、年間6千件の保険金（約6億円）を支払う。100年企業に育てるのが夢だ。

# 「社員を大事にできない会社に未来はない」

# フロントランナー

# Front Runner

(1面から続く)

# プロフィル

★1965年、東京都町田市生まれ。  
市立忠生小学校  
(当時) 時代=写  
真=は学級委員を  
務めるなど優等  
生。同中学ではバ  
スケットボール部  
キャプテンになる  
が、都立町田高校に進学後、グ  
レで授業をサボるようになる。  
1浪後、明治大学商学部に進学  
し、テニスサークル会長にな  
り、バブル時代の青春を謳歌。





★89年にAIU保険会社（現AIG損害保険）入社後、知的障害者補償制度の担当となる。

★2000年、チューリッヒ保険会社

★2000年、ラニ・ラニと保険会社へ転職。

★01年に元同僚だった9歳下の女性と結婚。3人の子どもに恵まれる

★04年、38歳で脱サラし、知的障害者親の会と一緒に設立した「全国知的障害者共済会」のソ

「全国知的障害者共済会」のメンバーとなる。

★06年、保険業法改正があり、同11月に日本で初めて知的・発達障害者などの保険会社「ぜんち

「共済」を起業。社長に就任。08年に少額短期保険業登録。今年、加入者が6万人を突破。

◆次回は獣医師の服部幸さん。猫の幸せと健康をとことん考え、2012年に猫専門病院「東京猫医療センター」を設立しました。積極的に講演活動を行っています

せんち共済のオフィスは役員も社員も横並びで座る。榎本重秋社長が立つている場所が自席!! 東京都千代田区九段北3丁目、森下香枝撮影



行つたり（笑）。いまだにこの時代の友人とは遊んでます。高校3年生になると授業に出なくなり、親が呼び出された。母親から「息子よ、偉い人にならなくとも人に迷惑をかけない人になつてほしい」と手紙で叱られ、猛省。大学受験するも全部、落ちて1浪し、何とか大学に受かりました。

——転機は27歳の時？  
上野支店で障害者保険の生みの親の永田仁司さんの担当になりました。永田さんは独立して事務所を立ち上げ、僕はその担当として一緒に障害者施設などを回りました。すると障害者のお母さんらが子どもが壊してしまった高価な置物などを保険で弁償でき、「助けてもらった」と感謝する光景を何度も目にしました。

——36歳で結婚され、心境の変化は？  
大阪支店に転勤し、職場で妻

「近い方話してくわまじた  
2000年にはチユーリッヒ保  
険会社に転職し、永田事務所に  
いた人と協力して同7月に障害  
者団体のお父さんやお母さんた  
ちと一緒に「全国知的障害者共  
済会」を設立しました。当初は  
会社の仕事と両立して手伝つて  
いたのですが、共済会の仕事に  
夢中になり、会社を辞めました。  
こからが苦労の連続でした。  
障害者のための保険をつくる  
という高い理想を掲げても、お  
金がなかなか集まらなかつた。  
7500万円の事業資金が必要  
でした。妻や関係者から5千萬  
円は自力でかき集めましたが、  
それ以上は厳しかつた。株式会  
社を設立した時、30代の元同僚  
女性とその知人の2人が入社  
し、手伝つてくれたが、他の社  
員が集まらなかつた。それで大  
手保険会社で保険金支払い、シ  
ステムなどの専門家5人をスカ  
ウトしたが、若手との間に溝が  
できていきました。

——板挟みになつた？

はい。若い社員たちは金融庁  
との折衝や資料作りも手伝つて  
いてくれたのですが、新たに入  
つてもらつた5人はいざれも管  
理職を経験した60代で知識や経  
験は豊富ながら、30代の社員ら  
との世代間ギャップが大きかつ  
た。金融庁に書類を出してもけ  
ねられるの繰り返しで、心身と  
もに拒否反応が出るようにな  
り、心療内科でうつ状態と診断  
され、処方された薬でフランフ  
ラになりました。

## 若手がボイコット

——職場の雰囲気は改善したのですか？

三  
三

九月

۶۹

「助けてもらつた

—子とも時代は？  
高校でやんちゃになつた。パ  
ーマかけて友達とバイクに乗つ  
ながら出勤するようなモーレツ  
社員でした。

と出会いました。その後、妻と遠距離恋愛になり、何度も大阪へ通い、承諾してくれました。

阪人に退  
しい会

返職しました。一若手で新「云社を作ろう」という僕のを信じて、ついて来てくれ

榎本  
重秋さん  
せんち共済社長